T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	森林資源管理における社会的合意形成プロセスの構築に関する研究 ～「国頭村森林地域ゾーニング計画」策定事業の実践と考察～
Title(English)	
著者(和文)	谷口恭子
Author(English)	Yasuko Taniguchi
出典(和文)	学位:博士（学術）, 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10022号, 授与年月日:2015年11月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:桑子　敏雄,坂野　達郎,猪原　健弘,後藤　美香,谷口　尚子
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10022号, Conferred date:2015/11/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

（論文博士）

論　文　要　旨　（和文2000字程度）

報告番号	乙 第　　号	氏　名	谷口　恭子

（ 要　旨 ）

森林管理では、保全と利活用の二項対立をどう克服するか、その道筋をどのようにみいだすかということが重要な課題である。本研究は、この課題について、わが国で代表的な亜熱帯林である沖縄県やんばるの森の「国頭村森林地域ゾーニング計画」（2011　国頭村）の策定事業を題材に、社会合意形成及び森林教育の観点から考察した。実践フィールドは、沖縄本島北部に広がるやんばるの森のなかでも、特に貴重な動物たちの生息地の中心となっている国頭村である。生物多様性豊かな亜熱帯林の保全と利活用をめぐる多様なステークホルダー（関係者）間のインタレスト（関心・懸念）が潜在的に対立するなか、紛争に陥らせずに合意形成を図るには、合意形成プロジェクト・マネジメントをどのように行うかが重要である。森林資源管理に関する合意形成については、様々な分野で研究が行われているが、基礎自治体による森林計画策定の実践に関する研究事例は少ない。

「国頭村森林地域ゾーニング計画」策定事業は、森林地域の保全と利活用のあり方を、国頭村が主体となって検討し、その考えを発信することを目的として約１年半で行われた。筆者は、プロジェクトの設計、検討委員会の運営、住民意見交換会でのファシリテーション等の活動をはじめとする計画策定の全般に関わる機会を得た。事業では、合意形成プロセスを含む事業による理論的・経験的な情報を分析した上で構築した「社会的合意形成プロセスにおける設計・運営・進行の具体的手法」を用いて行った。すなわち、本研究は、困難な合意形成の現場において、合意形成プロセスのための仮説を立て、当事者として問題解決の試みとして行った実践的・社会実験的研究と位置づけることができる。

論文は３部構成とし、第Ⅰ部では、やんばるの森の保全と利用の対立を解決するための森林管理計画を策定するための課題として、①保全と利活用をめぐる二項対立へ新たな価値観の導入、②森林地域の様々な境界による混乱の解消、③地域住民の意見を取り込むための仕組みづくりが必要であることを示した。第Ⅱ部では、第Ⅰ部で明確になった課題について、解決のために実践した基礎自治体による森林計画策定事業の具体的な内容と合意形成マネジメントについて論じた。第Ⅲ部では、国頭村の持続可能な森林資源管理の課題として、世界自然遺産登録、「森林業」への転換、計画策定後の課題について論じた。

本研究の成果は、課題解決のために以下の４点を示したことである。

①対立の深い森林管理の問題について、その問題の本質に沿い、かつ地域の実情に即しつつ、社会的合意形成プロセスのデザインとマネジメントを社会実験的に実践することで、対立の深い課題を合意に導くことができる。

②森林をめぐる対立紛争を解決するための合意形成のプロセスを、森林教育的な意味をもつものとしてデザイン・実践することで、多様なステークホルダーが環境をめぐる問題を深く理解し、また解決するためにはどのようなことが必要かを学ぶ機会を提供することが重要である。

③自然環境、行政機関等による生態学的・行政的資料をもとに、各種境界の複雑かつ多様な情報をＧＩＳソフトの活用によって重ね合わせ、統合することで、戦略的概念としての「ゆるやかなゾーニング」による合意形成を実現することが重要である。

④創造的・建設的合意形成プロセスの構築により、地域住民の意見を計画策定プロセスに組み込むことが重要であり、これにより、「再生するところ」による「ゆるやかなゾーニング」が実現できた。

本研究では、「国頭村森林地域ゾーニング計画」の策定事業の実践を、一般的な森林資源管理計画の策定において参照価値のある理論として示した。特に、関係者の潜在的な対立により森林管理計画の策定が困難な地域においては、基礎自治体である市町村が主体となって計画を策定すること、及び策定事業をプロジェクトとしてマネジメントすることが重要であることを強調したい。基礎自治体が主体となることで、林野、建設、環境等の行政部門単位での限定された法定計画としてではなく、部門の枠を超えたまちづくり計画等の総合計画として森林管理計画を策定することが、潜在的な対立を克服するための有効な手段であることを示したことが、本研究の成果のひとつである。

また、基礎自治体が主体となって計画を策定することにより、①対象地域の多様なステークホルダーが協議に参加し、インタレストを表現できる場をデザインすること、②多様なインタレストを基盤とした「ゆるやかなゾーニング」を行うことにより、地域の将来ビジョンを創造することを、計画策定の第１ステップと位置付けることが、関係者の潜在的な対立により森林管理計画の策定が困難な地域において重要であるということを、本研究の成果として提供する。つまり、しばしば明確な線引き（ゾーニング）によって顕在化する対立構造を克服するために、合意形成が可能な事項とそうでない事項を明確にしながら、地域の将来像を描くことを目的としたプロジェクトデザインとマネジメントを行うことが重要であること示した。次のステップとしての森林管理の具体的な実践にむけた合意形成プロセスの構築、さらに、類似環境を有するアジア地域や森林管理以外の事業への応用可能性の検証は、今後の重要な研究課題である。

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。
Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).
注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

（論文博士）

論　文　要　旨（英文）　（300語程度）

（Summary）

報告番号	乙 第　　号	氏　名	谷口　恭子

（要　旨）

A Study on Establishing a Public Consensus Building Process in Forest Management Planning–Forest Zoning Plan in Yambaru-Kunigami Village –

One of the most difficult issues for establishing a sustainable management plan that deals with conflicts between preservation and utilization of forests is how to the design an appropriate consensus building process as a result of the participation of various stakeholders. There are two purposes of this paper, first, to show the complex situation of conflicts concerning the preservation and development in the semitropical Yambaru Forest of Okinawa Island, and second, to analyze the project of establishing “Forest Zoning Plan in Yambaru-Kunigami Village” that was enacted in 2011 from the perspective of public consensus building and forest education. I participated in this project as a member of the consensus building management team and examined the process in detail.

A critical factor for the settlement of severe conflicts among stakeholders was the strategic employment of the notion of ‘soft zoning’ through which the author adopted a variety of GIS data of the area including not only ecological and infrastructural but also historical and cultural information. The author made use of the notion of ‘soft zoning’ in the Zoning Committee meetings and town meetings and succeeded in mitigating the conflicts and building a consensus by integrating people’s interests in the natural restoration of local inhabitants.

The collaborative process of constructing a forest plan had important educational values because it created an opportunity for participants to think about the forest use from different perspectives. It is crucial to include communicative processes that encourage participants to share a variety of ideas and to identify different ways to value forest. By implementing such participatory processes, people can reach a better plan of sustainable forest management and initiate actions for the realization of a shared plan.

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。
Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).
注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).